

共同薬局だより ～そよかぜ～



2010/9/10
復活 5号

特集：帯状疱疹

しばらくご無沙汰していた「そよかぜ」ですが、疾患特集号を随時更新する形で復活します。今後ともどうぞよろしくお祈いします。

(帯状疱疹とその経過：左右対称性が無いのが特徴)

子供が感染する水痘(水ぼうそう)と同じウイルス(水痘・帯状疱疹ウイルス)が、神経の付け根に残っていて体調が悪いと活性化されて、神経支配領域に添って帯状に疱疹を起こす病気です。皮疹・痛み・痒みの範囲は片側です。範囲が片側なのは、神経が背部から左右別々に出ているからです。片側性が特徴なので他の病気と区別が付きやすく、皮疹は特徴的な場合が多い疾患です。



経過は多少ずれることがありますが、普通は3～5日位で皮膚の表面に現れて初期は赤い皮疹を作り1～2日位すると水疱も出来ます。皮膚に出来る前から痛みが出現することが多く、痛みの強さは耐えられない強い痛みの人と我慢できる程度の人と稀に全く痛みを伴わないこともあります。

水疱は出現してから5日ほどで乾いてかさぶたになります。かさぶたができるまでは、水疱には水痘帯状疱疹ウイルスが入っているため、他の人にうつると水ぼうそうになることがあります。水疱が広い範囲に及んだり、2週間以上も治らない場合は、免疫機能が正常に働いていないことが考えられます。

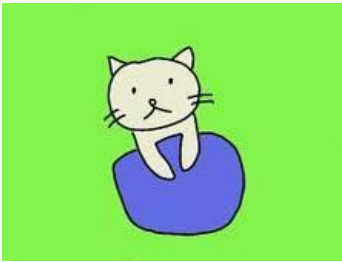
帯状疱疹は一度かかると終生免疫が得られ、再発するのは5%以下です。皮膚に瘢痕が大きく残ることもありますが、ほとんどの場合、後遺症もなく回復します。



(診断)

一般的に、水疱が出てからの帯状疱疹は比較的診断のし易い疾患と言われています。水疱が出る前であれば、虫垂炎や胆石、大腸炎と似た痛みが出るがありますが、経過を追い、水疱が現れれば診断に迷いはなくなるようです。

(治療)



带状疱疹が発症したら、安静が第一です。带状疱疹ウイルスが活性化するのは疲労、精神的や肉体的ストレスの時に多いので、十分な睡眠と栄養をとって安静にしていることが大切です。二次的な化膿は、水ぶくれを破らないようにして防ぎましょう。入浴は水ぶくれが破れていなければ可能です。

治療薬は数種類ありますが、いずれも、ウイルスの増殖を抑制する薬剤です。これらの薬剤は病気を治すわけではありませんが、症状を緩和し、病気の期間を短縮する効果があります。臨床試験では、疼痛を平均 35 日まで短縮し、その後、带状疱疹後神経痛 (PHN、90 日後の疼痛)が残った患者は 25%程度であったというデータがあります。

(带状疱疹後神経痛 = PHN)



带状疱疹後神経痛とは、带状疱疹ウイルスに感染した神経が支配する皮膚領域に起こる慢性的な痛みをいいます。この痛みは、带状疱疹にかかった後数カ月から数年にわたってしつこく続きますが、その間ウイルスが活発に増殖しているわけではなく、なぜ痛みが続くのかはよくわかっていません。

ほとんどの場合、痛みは 1~3 カ月で治まりますが、10~20%のケースで 1 年以上続きます。まれに 10 年以上続くこともあります。これまで多くの治療法が試されてきましたが、決め手となるような治療法は確立していません。現在のところ非ステロイド性消炎鎮痛剤、ステロイド剤、抗けいれん薬、抗うつ薬、麻薬系鎮痛剤などを用いるのが一般的です。新しい治療薬が登場し始めています

ので、PHNの予後改善が期待されています。

(痛みに対する治療に関して)

带状疱疹は、神経そのものが侵される病気なので、激しい痛みで日常生活が損なわれることがしばしばあります。皮膚に出る発疹なので、皮膚科しか掛からない患者様が多いですが、痛みが極めて強い、或いは痛みが長期間持続するといった場合、ペインクリニック(麻酔科)に受診し、相談することを検討してください。ペインクリニック学会で、带状疱疹後神経痛に関する講演の中で、テレビで時々耳にする「爪水虫は皮膚科です」と同じように「带状疱疹はペインクリニック科です」とキャンペーンをしたらどうかという話があったそうです。神経ブロックなどの方法を使い、痛みのコントロールを行ないます。

参考資料)メルクニアル日本語版「带状疱疹」、ちちかね皮膚科 HP、今日の治療指針

